平成28年度 一人一人に目を向けたアドバンスド事業

事業の目的

埼玉県学力・学習状況調査の結果を活用し、児童生徒の状況に応じた市町村 提案型の学力向上策を展開し、取組の成果を県内に普及する。

委託地区

八潮市 大原中学校区(大曽根小学校)

研究の実践

毎日のステップアップタイム

- ➢ 図を使った問題から数直線のかき方まで、 学年の実態に応じて問題を工夫する。
- ▶ 担任外の教員も各学年に振り分けて個別 支援にあたる。基本問題と応用問題を取 り入れ、上位児童にも対応する。問題は 担任外の教員が作成印刷する。
- ➢ 図、式、言葉を関連付けて考え、数直線 や線分図をかけるようになったことで、 数の関係をつかみ、立式ができ、解答を 導き出せるようになった。
- ➢ 図形領域での復習も問題としてスパイラ ルに取り入れたため、公式が定着した。

算数カルテの活用

- ➢ 学期ごとに学習した内容が児童一人一人 に定着しているのかを把握することができた。
- ≫ 算数カルテテスト満点賞などの取組から 児童の意欲が向上し、算数カルテテストで 満点を取ろうとする姿勢や満点に向けて 復習する取組が多くなった。

個別指導の充実

- ➢ 学期ごとの短縮日課の放課後に学習内容の確実 な定着を目指す児童を対象にチャレンジスクー ルを実施した。学習内容の理解が不十分だと思 われる内容を一人一人重点的に学習した。
- ⇒ サマースクール・ウインタースクール等の長期 休業日の補充学習も実施した。





5	5年 大曽根小	算数 :	重成さ		1	-
		e 10	-			107
7077	THE TAX PROPRIES	romande.	400	-	2 Var	
0.5	W 10	96.9	7.8	aM	12.94	28
8-1	Charenous accessor:	24		11.		
	Of Displace Constitutes.	241		111		
	ALLEY COMMITTEE	0.04				
	SO PRETENDED OF	0.024	1		11000	
n-8	A CASE MINE AND COMPANY OF		7			
	C AN A A	4n Certwill		1		
	*****	m g		10.25		19200
	- Calanda Adadeses	DEAD KINDS				
	2	130				
	1.1/	9220m		200		17.00
e-3	WEIGHT, NACH CORES	28.812 - 43			1500	
5-4	€ MUX8.3	184	Cal			
	20 100 61.5	200	5			-
5-5	(I) 2. 8×1. 6	21 118				
	2 2 35 - 5 6	10.16				-
	(中) a a ka ie な in engan n待のまき	m Ang	-		-	
b - e	Con sugaro schoute	4 480g	-		-	
5-7	D 200+2 5(86/65)	120	-		-	-
	2) 270÷1. 5(\$KV\$6)	100		-		
5-0	0 10:514 EUNWA)			-	-	-
	213 000 600000	6.5				-
		28,650 B	-			
9-9	THE RESIDENCE AND LESS OF THE PARTY OF THE P	ewenc a	Acres -			-
	The state of the s		9		-	-
5-10	D marrie chartelantes	27.10	-			
	4. 小型用的每个产品工作的企业的企业。	2. 7		-		
5 11	(1) しかからちゃり回信か	0.75%	-	-		
	CO MANGRAMMOMMEN	1.58			1 - 1	

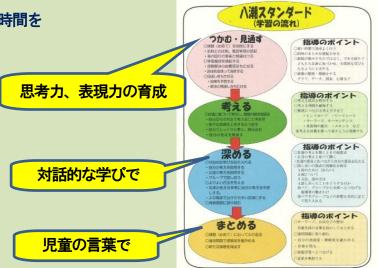


八潮スタンダードの活用

全教科での授業の流れ

- ⇒端的な導入
- ▶児童の考える時間、学び合う時間、習熟を図る時間を 十分に確保する。





教師の授業力の向上

- →研究授業前には、教職員が児童役となり、 教員全員で模擬授業を行う。
- ▶内容を検討後、さらに他のクラスで事前授業を行う。
- ▶事前授業を含め全教員が授業を行い、 指導力の向上を図る。







【模擬授業後の協議】

研究の成果(対象児童の学力が伸びた要因と考えられること)

- ▶毎日10分間のステップアップタイムに取り組むことによって、数直線がかけるようになり、文章題や応用問題に対応できるようになった。また、既習内容を復習することで定着を図ることができた。(児童)
- ▶算数カルテにより児童のつまずきを児童本人、教員がともに把握し、補充学習によって、学習内容の定着を図ることができた。(児童・教員)





- ▶補充的な学習により、学習内容の定着が 十分な児童に対して、個に応じた指導ができ、 学習内容の定着を図ることができた。(教員)
- →八潮スタンダードを活用した授業を実施 することにより、導入の時間を短くし 児童の思考する時間を十分に確保すること ができた。(教員)

研究の課題

- >学力の伸びが低い児童に対する意欲づけと学力向上の手立て
- >埼玉県学力・学習状況調査結果の詳細な分析による有効な手立ての検証と修正